

大学のSNSって ソーシャルなんですか？

株式会社朝日ネット 森田真基

The screenshot shows a web interface for a university course. At the top, it says '学場大学' (Gakko University) and '2007-05-16 (Wed) | English'. The user is logged in as 'Miyazaki Aoi'. The course title is '経営戦略論1(前期)' (Business Strategy 1 (1st Semester)). Below the title, there are tabs for '小テスト' (Small Test), 'アンケート' (Survey), 'レポート' (Report), '成績' (Grade), '掲示板' (Bulletin Board), and 'コンテンツ' (Content). A message from 2007-01-14 states: '期末レポートの資料をコンテンツにアップしました。' (Final report materials have been uploaded to the content area). There are two main content boxes: '掲示板(更新版)' (Bulletin Board) and 'コンテンツ(更新版)' (Content). The Bulletin Board lists items like '第1回レポート対策スレ' and '新入生コンテンツトップページ'. The Content box lists 'レポート資料' (Report materials), 'シラバス' (Syllabus), '今日の「心に響く言葉」' (Words that resonate today), '講義概要' (Lecture overview), and '日本の取引銀行の分析' (Analysis of Japanese correspondent banks). At the bottom, it says 'Copyright 2006 ASAHI Net, Inc. All Rights Reserved' and 'Powered by manaba'.



お話する内容

- 1) 自己紹介とmanabaのこと
- 2) 事例紹介
 - 授業における活用
 - 職員と学生／教員と職員のコラボレーション
 - OBと在校生のコミュニケーション
- 3) 運用の工夫 ～SNSとして成功するために～
- 4) 運用の本音 ～何のためのSNSか～

1) 自己紹介とmanabaのこと

About me

- 株式会社朝日ネット クラウドサービス部に所属
- 教育支援システム **manaba** の 企画開発、運用に携わる

About manaba

- 2007年よりサービスを開始。現在100校の導入実績。
- クラウド型、ただし
 - 導入校ごとに別サーバー
 - 管理者は、各大学の担当者
- **manaba course**
 - “コース”: 大学による公式なコミュニティ(主として講義)
- **manaba folio**
 - “コース”+ “コミュニティ”: 公式なコミュニティ+非公式なコミュニティ(自由に設立可)

<http://manaba.jp>

今回は、導入校の中から、代表的な事例をご紹介します。

2) 事例紹介

- 授業における活用
- 職員と学生／教員と職員のコラボレーション
- OBと在校生のコミュニケーション



導入校にご協力いただき、プレゼン時には各大学のSNSの画面をお見せして発表します。配布資料には画面写真は掲載できません。

3) 運用の工夫

- 安全、安心に運営できている理由
 - 実名での運用
 - CLOSEな環境
 - 「大学の場」であって「プライベートの場」ではない。
- 盛り上げるための「水向け」
 - 授業における活用の場合：
 - 成績と絡める。
 - 非公式なコミュニティの場合：
 - 発起人の「スカウト」。学生を立てる。
- 運用のポイント
 - 手間を掛けない。掛けるほど時間はない。
 - それでも、みんなは読んでいる。
 - SNSの中だけで完結するのではない。なぜなら...

4) 運用の本音

- 何のためのSNSか？
 - 「教育」以外の何ものでもない。
 - コストを掛けるのは、「教育」のため。
- SNSにおける「学び」のメリットとは
 - 学生同士の「学び合い」。
 - 距離と時間を超えるコミュニケーション。
→これまでになかった「組み合わせ」と「つながり」での相互作用。
※CLOSEな環境(管理されたメンバー)ならば、それを仕掛けることができる。
- バーチャルな「学びの場」と、現実の「場」の相互作用
 - SNSは、補完の仕組みである
 - 現実の場(授業、Face to Face のコミュニケーション)なしでは成立できない。

いわゆる「ソーシャル」ではダメ。CLOSEでなくてはいけない必然性もある。